

# 令和四年度 滋賀県立彦根東高等学校特色選抜 小論文

注意  
\* 答えは縦書きとし、解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。  
\* 字数には句読点も含まず。  
\* 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。  
\* 2の答えは、原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。

受検番号

次の文章をよく読んで、後の1、2の問いに答えなさい。

山が近くにある——日本に住んでいてよいと思うことのひとつである。東京のように関東平野の端にあるところからさえ、電車で一時間もあれば山登りができる。パリではこうはいかない。わたしの好きなグルノーブルの山々へ行くには、高速鉄道さえ三時間かかる。登山家ではないけれど、駅を降りて山が間近に見える、ふと心が軽くなる。巨人のようにそそり立つ岩山に囲まれると、肩の力が抜けてくる。都会の直線的な時間と空間に疲れたとき、なんとなく山の稜線が見たくなるのは、心がそう求めているからに違いない。

フランス語にはランドネという言葉がある。辞書を引くと「遊歩道」と出ているが、いわゆるプロムナードのような都会の遊歩道ではなく、野山を行く道のことを指す。本格的なアルピニズムよりは易しく、日常的な散歩よりは長く困難で、ガイドブックでは星の数でランドネの難易度を示していたりする。週末にデイバックを背負ってアルプスの谷間を歩いている人々は、ランドヌールである。意味としてはハイキングのだが、言葉の成り立ちは多少違う。

語源となる「ランドン」は、たとえば狩猟用の古い表現では、もともと獲物を追い詰めることを意味していた。山のなかで狩人と猟犬に追われて必死に逃げる動物は、こちらが予期しない方向へと走ってゆく。ランドネは、もともと用意された道ではなく、獣が本能的に選んでゆく、道なき道なのだ。

いっぽう英語では「ランドダム」という語が、獲物の予測のつかない動きや走り方から、「偶然」を意味するようになった。「ランドネ」も「ランドダム」も、人間に追われる動物の動きのイメージから派生している。それは自然と人間のあいだに発生する直線的ではない時間と空間であり、予測のつかない動きである。

近代的な合理主義は、出発地と目的地とを最短距離で結ぼうとする。それは直線の道であり、常に最適化された均衡を求める道である。わたしたちの生活の多くの部分は、そのようにして求められた道でできているが、しかしランドネという語が示すように、人類の歴史の大部分をつくってきたのは、実はそれとは別の道である。狩人や漁夫の眼差しは、必ずしも最短の経路を向いてはいない。彼らは自然のなかにあるさまざまなシグナルや痕跡を感じ、経験を通して分別し、言うなれば感性和理性とが統合された思考によって、目的を遂行する。そうした感性がなければ、動物の経路を見抜くことはできないし、潮と風を予測することは不可能だろう。そして①いま人類は、自然と人間との均衡を保ってきたのは、直線の道ではなく、感性の道ではなかったかと自問しはじめている。

山に直線はない。ランドネの道をたどれば誰もが知るように、山はそのかたちと大きさを常に変えつつ現われる。鹿やイノシシが出てこなくてもいい。歩いているうちに、それはわたしたちの身体に刻まれ、わたしたちが辿ってきたのとは、また②別の道を指し示す。

(注) (港) 千尋 『書物の変—グーベルグの時代』による。

(注) グルノーブル⇨フランスの地名

稜線⇨空と山との境界線

アルピニズム⇨登山のこと

デイバック⇨小型のリュックサック

ランドヌール⇨ここではハイキングをする人々のこと

1 傍線部①のように、人類が自問しはじめるようになってきたのはなぜか。八十字以上、百字以内で説明しなさい。

2 あなたにとって傍線部②のような「別の道」を歩むとはどのような行動をいうのか。真っ直ぐな道にはない良さを明らかにして、体験や具体例を交えて百四十字以上、百八十字以内で書きなさい。